

巻頭言

愛媛県立三崎高等学校
校長 和田 俊之

本校は、四国最西端の地、愛媛県西宇和郡伊方町に位置し、伊方町唯一の県立高等学校であります。伊方町は、少子高齢化、地域活動の担い手不足等が深刻化しており、過疎化等の課題を抱えた地域となっています。また、本校生徒は卒業後、進学や就職を機に都市部へ転出する生徒が多く、地元に残り活躍する生徒の育成が不可欠になっています。

このような状況の中、本校では、平成27年度より、「地域を知る」「地域を愛する」ことをねらいとし、地域住民など地域側のニーズに応える形での地域活動や、地域全体を学びの場として捉えた地域課題の解決を目的とした探究活動を行ってきました。地域活動や探究活動を通して地域住民とのつながりを深める中での調整力やコミュニケーション力などの生きる力の育成に努めてきました。また、将来、進学先や就職先で身に付けた広い視野、高い専門性、豊かな人脈を地元を持ち帰って活躍する、生業・事業・産業を創出する「ブーメラン人材」の育成に取り組んできました。

平成31年度（令和元年度）より3年間、文部科学省からの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定をいただき、これまで取り組んできた地域活動や探究活動等の学習内等をより進化させ、研究を行ってきました。具体的には、生徒の自主的な取組を活動の中心に据えながら、より高度な新カリキュラムの編成や組織編成に取り組み、「地域理解」「地域課題の発見・解決」「ブーメラン人材の育成」を3年間継続して行うことができる学校設定科目「未咲輝（みさき）学」の開設・運営を中心とした整備を行いました。また、組織づくりとしては町役場や地元NPO団体といった、地域に深く根差した団体に加え、県内外の大学等の教育機関にも参加していただき、地域の実態に即したコンソーシアムの編成も行ってきました。特に、本校の探究活動は、外部人材と関わりながら生徒自身が企画・実践を進めていくという特徴があり、学習を通して、計画力・判断力・実践力・調整力・コミュニケーション力について、生徒の成長に結び付けることができたと感じています。

令和4年度から令和6年度までの3年間、文部科学省から新たに指定をいただき、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」についての研究を進めています。この新事業では、令和6年度設置予定の地域社会学科（仮称）に向け、①変化の激しい社会を生き抜くことができる人材の育成 ②地域社会とつながる人材の育成 ③地域社会学を教育課程に位置付けたSTEAM教育・キャリア教育の推進を掲げています。学校と地域が連携し、総合的な探究の時間や学校設定科目「未咲輝学」の探究活動と各教科における地域連携を軸とした「地域社会とつながる授業」を連動させながら、教科等横断的な学習を行い、各教科の学習を社会生活と結び付けることや本校独自のSTEAM教育の積極的な導入により、これまで以上に生徒の学びの自走性を高め、生徒の進路希望に合った、一人一人に個別最適な学習が可能になると考えています。また、研究の中で、仮設の設定、検証（実証）を繰り返し、生徒の課題解決力・コミュニケーション力・調整力・論理的思考力・判断力・表現力・実践力・計画力など、「多面的に学び、考える力」を育成するとともに、新たな価値観や生き方を生み出す「デザイン思考」を身に付け、地域社会とつながることのできる新時代に対応した人材の育成につなげていきたいと考えています。

本報告書は、本事業1年目の研究成果をとりまとめたものです。本報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと存じます。最後になりましたが、本校の研究に御支援、御指導を賜りました関係者の皆様方に感謝申し上げます、挨拶といたします。